

2008年12月17日

HSBC、「気候原則」を採択

ロンドンに本拠をおく世界有数の金融・銀行グループであるHSBCは、12月2日、気候変動に対する金融セクターの実践的な行動枠組みを示す「気候原則(The Climate Principles)」を正式に採択しました。

「気候原則」と名付けられたこの新しい行動規範は、金融セクターとして気候変動にいかに対応すべきかを示した初めての包括的フレームワークであり、クレディ・アグリコル(Crédit Agricole)、ミュンヘン再保険(Munich Re)、スタンダードチャータード(Standard Chartered)、スイス再保険(Swiss Re)、そしてHSBCにより採択されました。

「気候原則」は、事業活動から生じる温室効果ガス(GHG)排出削減の指針となるほか、調査活動、アセットマネジメント、リテールバンキング、コーポレートバンキング、保険および再保険、投資銀行業務、プロジェクトファイナンス等の金融商品・サービスの全領域にわたる戦略的方向性を提供するものです。また、気候変動への対策を効果的で一貫性のあるものとするため、「気候原則」は既存施策を基に策定され、整合性が図られています。

HSBCの環境顧問であり、「気候原則」の委員長であるフランシス・サリバンは、「『気候原則』を採択する金融機関は、リサーチ業務や投資意思決定において、炭素リスクや気候変動リスクを考慮することになります。さらに、気候変動がもたらすリスクと機会を的確に捕捉できるよう顧客をサポートするとともに、リスク管理と事業機会拡大を手助けする商品とサービスを開発していきます」と述べています。

「気候原則」の策定によって各金融機関は、中核的な事業戦略と業務に気候変動への配慮を十分に組み込んでいることや、主要指標の進捗状況を広く一般に公開することが可能となります。

HSBCは、あらゆる国際的金融機関が「気候原則」を支持し、採択することを期待しています。

次頁に続く

HSBC、「気候原則」を採択/2

経済開発と気候変動に関するHSBCの特別顧問であるニコラス・スターン卿は、「グローバルに事業展開する金融機関にとって、『気候原則』は、物理的リスク、規制リスク、市場リスク、レピュテーションリスク等の気候変動リスクを軽減する上で役立つほか、新たな事業機会や成長源を顧客が活用できるようサポートする際の一助となります。こうした取り組みによって、低炭素経済への移行が加速していくでしょう。」と述べました。

「気候原則」の詳細に関してはwww.theclimateprinciples.orgをご覧ください。

HSBCグループ

HSBCグループの持株会社であるHSBCホールディングス plc は英国に本部を置いています。

HSBCグループは世界で1億の顧客に対してサービスを提供しております。HSBCグループは、ヨーロッパ、アジア太平洋地域、アメリカ大陸、中東、アフリカにまたがる85の国と地域に9,500を超える拠点を擁し、2008年6月末現在2兆5,470億米ドルの総資産を持つ世界有数の金融グループです。

以上